

塩崎厚生労働大臣ステートメント（仮訳）

AMRに関する国連総会ハイレベル会合  
2016年9月21日  
国連本部、ニューヨーク、アメリカ

議長、ご来席の皆様

薬剤耐性（AMR）は、早急に世界的な対策をとることが必要とされる、最も多大かつ重要な課題である。私は、国連総会ハイレベル会合にて、今回 AMR が取り上げられたこと、また AMR に関する政治宣言が採択されるに際し、全ての関係者の努力に敬意を表したい。

本年、4月のアジア AMR 東京閣僚級会議、5月の G7 伊勢志摩サミット、そして一週間前に開催した G7 神戸保健大臣会合を含む一連の国際会議を通じて、我々は AMR を世界的な優先課題として位置づけ、このハイレベル会合にもつながる最大級の政治的意志を必要とするものとした。

私は、以下3つの優先分野において、我が国がどのように AMR 対策に取り組むかを共有したい。

第一に、世界全体の公共財としての抗菌薬の効果を保つためには、臨床現場における正確な診断と適切な抗菌薬の使用が重要である。わが国では、広い抗菌スペクトルの抗菌薬の頻回処方が深刻な懸念となっており、したがって、効果的な臨床ガイドラインを策定し、医療専門職に対する研修を実施することが必要である。

第二に、各国や地域において政策や戦略を策定するためには、AMR に関するデータを世界的に共有することが不可欠である。AMR と闘

うために、我々は、各国に対して国レベルでの AMR サーベイランスシステムを構築し、WHO 世界薬剤耐性サーベイランスシステム（GLASS : Global Antimicrobial Resistance Surveillance System）に加入することを奨励する。アジア地域では 2050 年までには AMR による死者数が、世界のどの地域よりも多く 470 万人に上ると推計されており、我々は、とりわけこのアジア地域を中心に、さらなる技術協力を進めていく所存である。AMR の拡大を予防するためには、AMR 及び抗微生物剤利用に関するモニタリングとサーベイランスに関する研究機関の能力を発展させることが必要である。

第三に、我々は AMR に関する研究や開発を加速させる。日本国政府、民間企業・団体による官民パートナーシップである GHIT（グローバルヘルス技術振興基金）を通じた薬剤耐性マラリアや結核感染症への投資を含む、抗微生物剤の研究や開発に対する支援を継続していく。加えて、我々は AMR に関する規制調和ガイドラインを策定する予定である。

議長、私は今回のハイレベル会合が、薬剤耐性感染症から次世代を救うための転機として、重要な機会になると確信している。我が国は、引き続き国際社会と密接に連携するとともに、AMR に対する国際的な取り組みの最前線を担い続ける所存である。

ご静聴に感謝したい。